

令和7年度 学校経営方針

栃木市立栃木第五小学校

I 学校教育目標設定にあたって

本校は昭和26年に旧栃木県園芸指導所跡地に竣工され、本年度で創立74年目に当たる。東は市街地に隣接し、バイパスや通り沿いには店舗が点在している。西には太平山を頂き、麓には永野川が流れる。学区内には、保育園、幼稚園、中学校、高校、大学が数多く存在し、文教地域を呈しているが、少子化の流れから、今後高等学校や大学での統合や縮小が計画されている。

本校の児童数は、開校当初400名台（12学級）であったが、昭和56年には1162名（30学級特1）となった。近年では、減少傾向をとどめたが、ここ数年は、その傾向が弱まり（令和7年1月時点）は471名で、栃木市内の小学校29校のうち4番目に児童数が多い学校となっている。また、学区は広く遠方から通学してくる児童もいるが、登校班が存在せず、保護者や地域の方から見守られながら登校していることも特徴である。

この地域は、従来、米・野菜等の農作物を栽培する農村地域であったが、急激に宅地造成が盛んになり、生活環境の変化とともに家庭や子どもたちの様子にも変化があり、それらに対応する学校づくりが求められてきた。

さらに、現行学習指導要領で示された「主体的・対話的で深い学び」や一人1台端末に象徴される教育のICT化などに対応すべく教育課程の改善を図ってきた。

そのような中、令和5年度、6年度の2年間において栃木市教育委員会の指定を受け、「グローバル教育プログラム」の研究を推進し、多角的・多面的な視点から物事を捉え、客観的に判断できる思考力・判断力を育てる学習のモデル校として公開研究発表会を実施し、これまでの本校教育に大きな成果があることが確認できた。

今後も本校が積み上げてきた教育を更に推進していくため、「子供が安心して過ごし、互いに認め合うことができる学校」という教育を基盤とし、教育目標「かしこく やさしく たくましく」の達成に向けた重点努力目標及び具体策を策定し、全校を挙げて取り組んでいきたい。

また、今後は、AIの更なる急速な発展等により、加速度的に大きく社会全体が変化していくと予想されているが、そのような時代においても、誰一人取り残さない教育を大切にし、持続可能な社会の創り手となる児童を育てなければならない。そのためには、豊かな心で協働して課題解決していく絆の基盤となるあいさつ指導の深化拡充を図る。さらに、キャッチフレーズ「ありがとうと言える人 ありがとうと言われる人になろう」を具現化することで、思いやりの心を大切にしながら自己有用感を高め、全児童が感謝と奉仕の心をもって活動できる学校を目指し、児童のwell-beingの向上を図る。

II 学校経営の方針と重点

1 本校の教育目標とめざす子ども像

○ かしこく	☆ 進んで学び、自分の考え方や思いを豊かに表現できる子
○ やさしく	☆ 誰とでも好ましい関係が築ける子
○ たくましく	☆ 自分で考え、正しく判断し、主体的に行動できる子

2 学校経営の方針

全教育活動を通じて、本校の教育目標達成のために、全教職員の特性發揮と協働体制により、「チーム学校」としての機能性を向上させる。

(1) 「学ぶ力」を育む授業改善・指導力の向上

ねらいを明確にし、児童にとって分かる授業づくりに努める。授業においては、ICTを効果的に活用しながら、基礎的、基本的な知識及び技能の確実な習得と、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力の育成を図るとともに学ぶ意欲を高め、主体的・対話的で深い学びの実現に向け授業改善をしていく。

(2) 豊かな心を育む安心安全のある学校の醸成

自他を大切にし、よりよい人間関係をつくろうとする態度を育て、豊かな心を育めるようチームとして協働的に児童の指導、支援にあたる。

また、危機管理体制を確立するとともに、防災教育、安全教育、情報モラル等に関する指導の充実を図り、いじめ・不登校・問題行動・児童虐待等への未然予防と早期解決に努める。

さらに、家庭や地域と互いに連携・協力し合い、信頼感に満ちた学校経営に努める。

(3) よりよい学年・学級集団の育成

「多様な他者と協働して課題を解決できる児童の育成」を目指したグローバル教育プログラム研究成果を生かし、どのような学習課題・生活課題についてもコミュニケーション能力を高め合いながら協働的に課題解決に向かう学年・学級集団を育成する。そのために、思いやりの心や自己有用感が育まれる温かな集団を目指し、全教育活動の中で、道徳教育、人権教育を推進するとともに、あいさつと「ありがとう」が溢れる学校を目指す。

(4) 地域とともにある学校・学級づくりの推進

西中学区での小中一貫教育を進めるとともに学校運営協議会を軸とするコミュニティスクールの運営を進め、とちぎアシストネットの人材や地域教材の活用を推進し、地域ぐるみで、教師にとっても児童にとっても、互いに認め合い、支え合い、高め合う、活気に満ちた居かいのある学校づくり、学年・学級づくりに努める。